

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名：インサルクラックボンド
推奨用途及び使用上の制限：セメントスプレー用定着液
輸入総販売元：株式会社 エービーシー商会
住所：東京都千代田区永田町2-12-14
担当部門：インサル事業部
電話番号：0120-011-462
FAX番号：03-3581-4946

整理番号：ICB-002

作成 2021年10月26日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 エアゾール

区分 1

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

区分 3（麻酔作用）

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

極めて可燃性の高いエアゾール
高圧容器：熱すると破裂のおそれ
眠気又はめまいのおそれ

注意書き：

【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

【応急措置】

気分が悪いときは医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

【特定の物理的及び化学的危険性】

高圧の引火性ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険性がある。

燃えやすいガスが入っている。ガスが滞留すると爆発の恐れがある。

3. 物 質 の 特 定

化学物質・混合物の区別：混合物

成 分（化 学 名）	含有量 %	CAS No.	官報公示整理番号（化審法）
ジメチルエーテル	20-30	115-10-6	2-360

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

労働安全衛生法・化学物質管理促進(PRTR)法該当成分については、「15. 適用法令」を参照下さい。

4. 応 急 措 置

応 急 措 置 の 記 述

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合 付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。
溶剤、シンナーを使用してはならない。
直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合 嘔吐物を飲み込ませてはならない。
医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。
負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。

応急措置をする者の保護 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
適切な換気を確保する。

5. 火 災 時 の 措 置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は、泡、粉末、炭酸ガスを使用する。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
消火活動は風上より行う。
可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
エアゾール製品の場合、高温で破裂する恐れがあるため、消火活動は距離を十分に取る。

消火活動を行う者の特別な 保護具及び予防措置

適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

6. 漏 出 時 の 措 置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

環境に対する注意事項：

河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。

二次災害の防止策

着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。

7. 取 扱 い 及 び 保 管 上 の 注 意

取扱い

（取扱者のばく露防止）

技術的対策

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
（火災・爆発の防止）
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。
禁煙。
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。

安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

接触回避

酸化性物質との接触を避けること。

保管 安全な保管条件
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。
(避けるべき保管条件)
日光から遮断すること。
温度が40℃以上のところで保管しない。
安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止措置

ばく露防止

設備対策 適切な換気のある場所で取扱う。
排気/換気設備を設ける。

保護具
呼吸用保護具
呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具
保護手袋を着用する。
眼の保護具
保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具
保護衣を着用する。

9. 物理／化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体
色：乳白色
臭い：僅かなアクリル臭
融点/凝固点データなし
沸点又は初留点：(ジメチルエーテル)-23.6℃
沸点範囲データなし
可燃性(ガス、液体及び固体)：点火性あり
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：
爆発下限：3.4vol %
爆発上限：26.7vol %
引火点：(ジメチルエーテル)-41℃
自然発火点：(ジメチルエーテル)350℃
分解温度データなし
pHデータなし
動粘性率データなし
蒸気圧データなし
密度及び/又は相対密度：0.89 ± 0.02g/cm³
相対ガス密度(空気=1)データなし
20℃での蒸気/空気-混合物の相対密度(空気=1)データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

エアゾール製品の場合 40℃以上になると缶が破裂する恐れがある。

危険有害反応可能性

酸化性物質等と触れると反応する危険性がある。

避けるべき条件

加熱、スパーク、裸火、及びその他の発火源は避ける。

混触危険物質

酸化性物質

危険有害な分解生成物

燃焼により、一酸化炭素、窒素酸化物、その他低分子モノマーなどの有害ガスが発生する。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

局所効果

皮膚腐食性/刺激性データなし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性データなし

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

〔区分3（麻酔作用）〕

（ジメチルエーテル）

麻酔作用

特定標的臓器毒性（反復ばく露）データなし

誤えん有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

水生環境有害性 短期（急性）

（ジメチルエーテル）

魚類（グッピー）LC50 > 4000mg/L/96hr（IUCLID, 2000）

水溶解度

（ジメチルエーテル）

4.6 g/100 ml（PHYSPROP_DB, 2008）

残留性・分解性

残留性・分解性データなし

生体蓄積性

(ジメチルエーテル)
log Pow=0.1 (ICSC, 2002)

土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

その他情報

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃 棄 上 の 注 意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
エアゾール製品の場合は、焼却処理を行わないこと。
エアゾール製品の場合は、中身を完全に使い切り、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜いてから捨てる。
中身の入ったものは絶対に廃棄しない。
ガスを抜く際には、火気及びミストの吸入などについて注意すること。

汚染容器及び包装

使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

14. 輸 送 上 の 注 意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号：1950
正式輸送名：
エアゾール、可燃性
分類または区分：2.1
容器等級：該当しない
指針番号：126
特別規定番号：63；190；277；327；344；381

環境有害性

MARPOL条約附属書III - 個品有害物質による汚染防止
海洋汚染物質（該当/非該当）：非該当

特別の安全対策

特別の安全対策データなし

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

ガス類 引火性ガス 分類2 区分2.1

航空法

高圧ガス 引火性ガス 分類2 区分2.1

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

別表第1 危険物（第1条、第6条、第9条の3関係）

危険物・可燃性のガス（令別表第1第5号）

労働安全衛生法に該当しない。

化学物質管理促進（PRTR）法に該当しない。

消防法に該当しない。

高圧ガス保安法

このエアゾール製品は容器内容積が1リットル以下、及び温度35℃において圧力0.8MPa以下、かつ
高圧ガス保安法施行令関係告示第四条第三項に該当するため、高圧ガス保安法の適用除外となり
ます。

化学安全性評価

本製品の化学安全性評価は行なわれていない。

16. その他

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN
IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)
IATA 航空危険物規則書 第62版（2021年）
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2021 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2020 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）
Supplier's data/information
Hazard Communication Standard - 2012 (29 CFR 1910.1200)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見に
よつ

て改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊
な取

扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。